

平成 30 年 8 月 1 日
仙台管区气象台

東北地方の 7 月は記録的な暑さとなりました

～ 2018 年 7 月の東北日本海側と東北南部の月平均気温は
高い方からの 1 位を記録～

梅雨前線の影響が小さく太平洋高気圧に覆われ、平年に比べ晴れた日が多かったため、東北日本海側と東北南部の月平均気温は、7 月としては統計開始以降高い方からの 1 位を記録しました。

梅雨前線の影響が小さく太平洋高気圧に覆われ、平年に比べ晴れて気温の高い日が多かったため、東北日本海側と東北南部の月平均気温はそれぞれ平年差 +2.7 、 +3.2 で 7 月としては 1946 年の地域平均の統計開始以降の高い方からの 1 位（東北日本海側は 1 位タイ）を記録（これまでの 1 位は 1978 年で、東北日本海側は +2.7 、 東北南部は +2.6 ）しました。

また、新庄、若松、酒田、山形、仙台、福島、白河、小名浜の月平均気温も 7 月としては統計開始以降の高い方からの 1 位（小名浜は 1 位タイ）を記録しました。

詳しくは、下記 URL より、「2018 年 7 月の東北地方の天候」をご覧ください。

仙台管区气象台ホームページ 「2018 年 7 月の東北地方の天候」
https://www.jma-net.go.jp/sendai/kouhou/houdou/18/20180801_07TukiGaikyoku.pdf

問合せ先：仙台管区气象台気象防災部 地球環境・海洋課
担当：金濱・正木 電話：022-297-8177 FAX：022-291-8110

2018年7月の東北地方の天候

東北地方の月平均気温はかなり高く、東北日本海側と東南北部の月平均気温は、7月として統計開始以降の高い方からの1位を記録した。

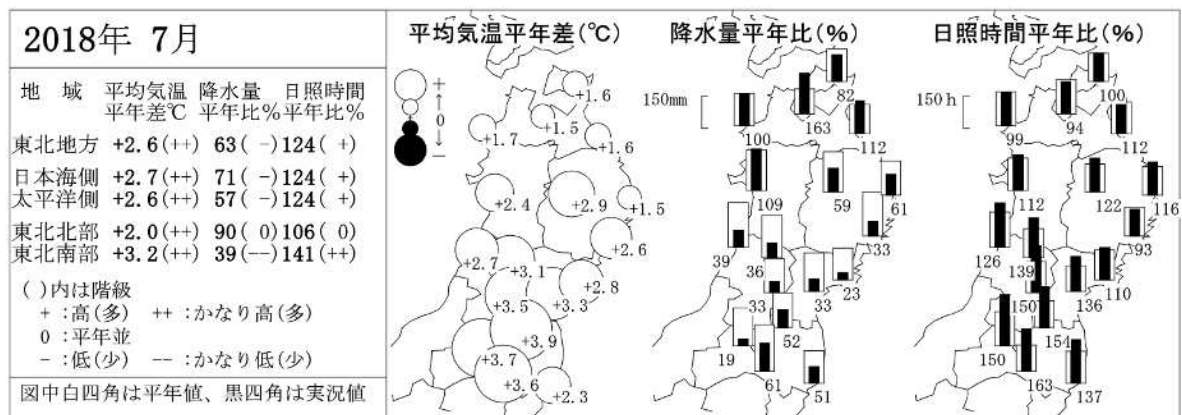
概況

この期間、梅雨前線の影響が小さく太平洋高気圧に覆われ、平年に比べ晴れて気温の高い日が多かったため、東北地方の月平均気温はかなり高く、東北日本海側と東南北部の月平均気温は1946年の統計開始以降7月として高い方からの1位（東北日本海側は1位タイ）を記録した（これまでの1位は1978年で、東北日本海側は+2.7、東南北部は+2.6）。また、新庄、若松、酒田、山形、仙台、福島、白河、小名浜の月平均気温も7月としては統計開始以降の高い方からの1位（小名浜は1位タイ）を記録した。梅雨前線や気圧の谷の影響を受けにくかった東南北部では月降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。また、下旬後半は東北日本海側ではフェーン現象のため気温がかなり高くなった所があった。

東南北部は7月14日ごろ、東北部は7月20日ごろ、梅雨明けしたとみられ、東南北部では平年より11日早く、東北部では平年より8日早かった（速報値、平年の梅雨明けは東南北部7月25日ごろ、東北部7月28日ごろ）。

4日は、台風第7号から変わった低気圧の影響により、東北部を中心に大雨となった。5日から7日にかけては低気圧や前線の影響により東北各県で大雨となった所があった。12日から13日にかけてと17日は、気圧の谷の影響で、東北部を中心に大雨となった所があった。28日から29日は台風第12号の影響で東北太平洋側南部を中心に大雨となった所があった。

月平均気温はかなり高い。月降水量は東北部で平年並、東南北部でかなり少ない。月間日照時間は東北部で平年並、東南北部でかなり多い。



平均気温の平年差、降水量・日照時間の平年比の分布

降水量、日照時間平年比分布図の凡例について

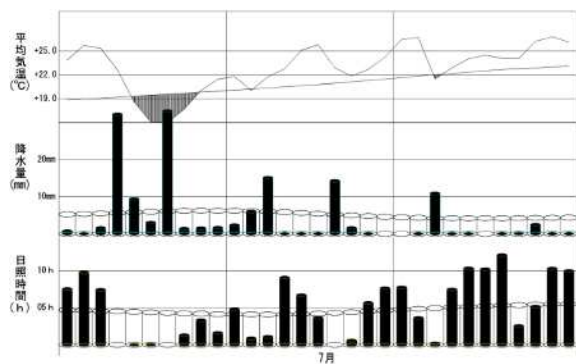
降水量、日照時間平年比分布図の各地点の白四角と黒四角はそれぞれ平年値と実況値です。各分布図の左上のスケール（高さ）は、降水量（mm）、日照時間（h）を表します。各地点の数字は平年比（%）です。

注意事項

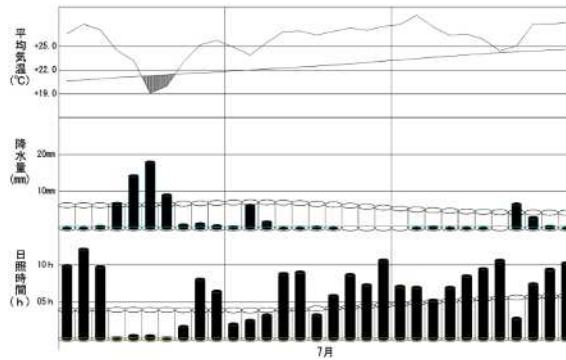
気候統計値は、東北地方にある17地点の气象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています（速報値）。

細分地域を東北日本海側は青森県津軽・秋田県・山形県・福島県会津、東北太平洋側は青森県下北・三八上北・岩手県・宮城県・福島県中通り・浜通り、東北部は青森県・秋田県・岩手県、東南北部は宮城県・山形県・福島県としています。

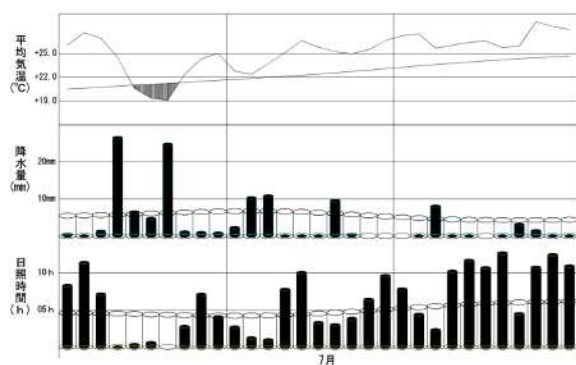
気温の高い・低い、降水量、日照時間、降雪の深さ合計の多い・少ないは、特にことわらない限り平年と比較した階級を表します。平年値の統計期間は1981～2010年です。階級区分は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が10個ずつになる）ように決めています。また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には「かなり高い（多い）」「かなり低い（少ない）」と表現します。



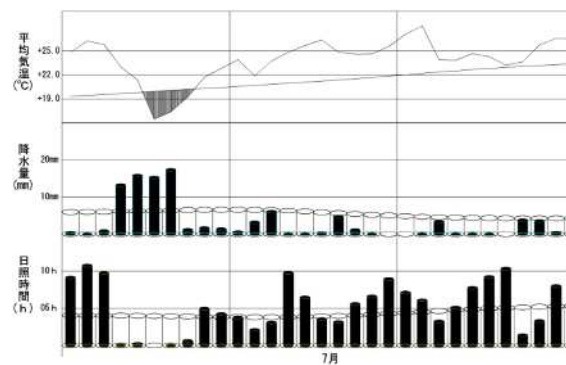
東北北部



東北南部



東北日本海側



東北太平洋側

平均気温、降水量、日照時間の経過

左上は東北北部、右上は東北南部、左下は東北日本海側、右下は東北太平洋側の気象官署の観測値と平年値の地域平均。気温は折れ線が観測値、実線が平年値で、陰影は平年値より低いことを示す。降水量と日照時間は黒円柱が観測値、白円柱が平年値。

2018年7月の極値・順位の更新（順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。）

月平均気温高い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温	平年差	これまでの最高 (西暦年)	開始年	平年値
1	新庄	25.5	+3.1	25.0 (1978)	1958	22.4
	若松	27.2	+3.7	26.2 (1994)	1954	23.5
	酒田	26.0	+2.7	25.6 (1978)	1937	23.3
	山形	26.8	+3.5	26.2 (1924)	1889	23.3
	仙台	25.5	+3.3	25.3 (2010)	1927	22.2
	福島	27.5	+3.9	26.7 (1978)	1889	23.6
	白河	25.8	+3.6	24.6 (1994)	1940	22.2
	小名浜	24.3 =	+2.3	24.3 (2001)	1910	22.0
3	大船渡	23.6 =	+2.6	23.8 (2010)	1964	21.0
	秋田	25.3	+2.4	25.4 (1978)	1883	22.9
	盛岡	24.7	+2.9	25.2 (1978)	1924	21.8

月降水量少ない方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最小 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
2	若松	34.0	19	31.5 (1973)	1954	175.8

月間日照時間多い方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最大 h (西暦年)	開始年	平年値 h
3	白河	198.9	163	209.4 (1973)	1940	121.9

月平均気温低い方から、月降水量多い方から、月間日照時間少ない方からの順位更新の3位以内はありません。

(注) 値の横に] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等、統計に用いなかった値が含まれている(資料不足値)。順位は更新順位以上になることは確実であるが、統計値の使用に際しては気候表に記載した統計日数を参照されたい。
平年値とは1981～2010年の30年間の値を平均したものである。

2018年7月の月気候表

地点名	平均気温(平年差) 階級		降水量(平年比)階級		降水日数 1mm	日照時間(平年比) 階級				
	()	()	(mm)	(%)		(h)	(%)			
青森	22.6	(+1.5)	+	191.0	(163)	+	12	150.0	(94)	
深浦	23.0	(+1.7)	+*	150.5	(100)		12	154.5	(99)	
むつ	21.1	(+1.6)	+	125.0	(82)		13	131.5	(100)	
八戸	21.7	(+1.6)	+	152.5	(112)	+	11	166.9	(112)	+
秋田	25.3	(+2.4)	+*	204.5	(109)		8	168.3	(112)	+
盛岡	24.7	(+2.9)	+*	109.5	(59)	-	10	157.1	(122)	+
大船渡	23.6	(+2.6)	+*	67.5	(33)	-*	8	124.0	(93)	
宮古	21.3	(+1.5)	+	97.0	(61)	-	10	154.7	(116)	+
仙台	25.5	(+3.3)	+*	58.5	(33)	-*	10	163.1	(136)	+
石巻	24.2	(+2.8)	+*	33.5	(23)	-*	9	151.3	(110)	
山形	26.8	(+3.5)	+*	52.0	(33)	-*	7	216.0	(150)	+*
新庄	25.5	(+3.1)	+*	71.0	(36)	-*	8	186.7	(139)	+*
酒田	26.0	(+2.7)	+*	80.5	(39)	-*	8	207.0	(126)	+
福島	27.5	(+3.9)	+*	83.5	(52)	-	10	190.2	(154)	+*
若松	27.2	(+3.7)	+*	34.0	(19)	-*	9	239.1	(150)	+*
白河	25.8	(+3.6)	+*	132.0	(61)	-	6	198.9	(163)	+*
小名浜	24.3	(+2.3)	+*	76.5	(51)	-	4	203.1	(137)	+*

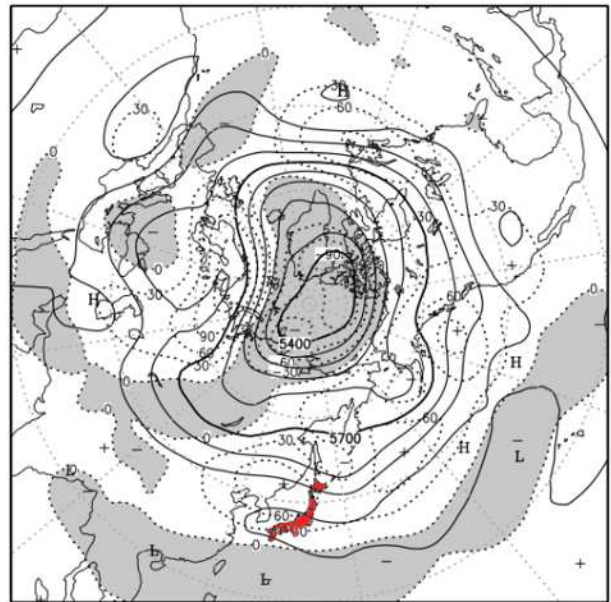
(注) 1. 平年値は1981～2010年の資料から求めた。
2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。
+ : 高い(多い) : 平年並 - : 低い(少ない)
各階級の区分値は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。
また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+ -」に*を付加した。この場合には
かなり高い(多い) かなり低い(少ない)
と表現できる。
3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。) 付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが、] 付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして使用されたい。
なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

循環場の特徴

500hPa 高度は、偏西風の蛇行が明瞭で日本付近で北へ蛇行したため、顕著に平年より高度が高くなり、暖かい空気に覆われやすかった。一方、千島近海に気圧の谷があり、東北北部は気圧の谷の影響を受ける時期があった。

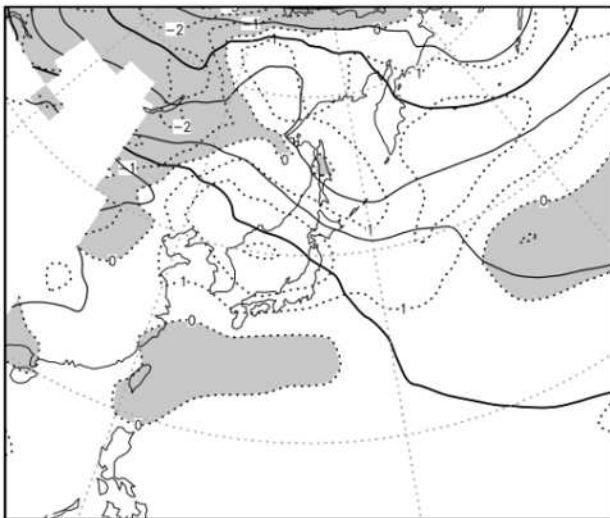
850hPa 気温は、本州付近は中国東北区から日本の東海上まで東西に平年より高かった。

海面気圧は、本州付近は広い範囲で平年より高く太平洋高気圧の北への張り出しが強かったため、東北地方は暖かい空気に覆われやすかった。



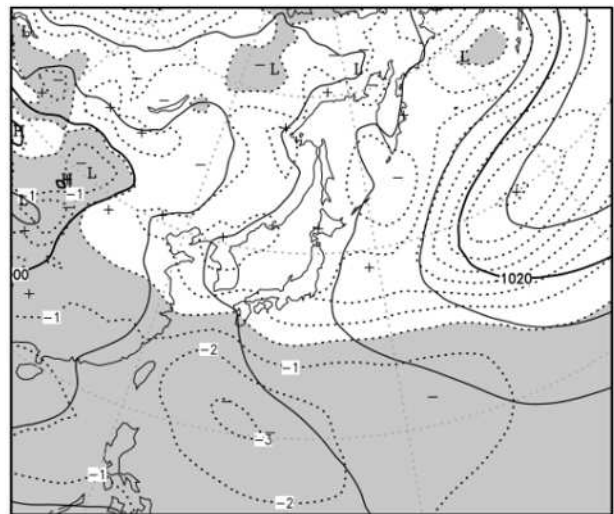
2018年7月の平均500hPa高度

実線は高度(m)、間隔60m。点線は偏差(m)、間隔30m。陰影は負偏差で一般に寒気に対応し、白抜きは正偏差で一般に暖気に対応する。



2018年7月の平均850hPa気温

実線は気温(°C)、間隔3。点線は偏差(°C)、間隔1。陰影は負偏差で寒気に対応し、白抜きは正偏差で暖気に対応する。



2018年7月の平均海面気圧

実線は海面気圧(hPa)、間隔4hPa。点線は偏差(hPa)、間隔1hPa。陰影は負偏差、白抜きは正偏差。